

特別寄稿

新型コロナウイルス感染症との闘い

日本医科大学千葉北総病院 病院長

別所 竜蔵 (べっしょ りゅうぞう)



2019年晩秋に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が、瞬く間に世界に蔓延し、社会生活のあらゆる分野に歴史的厄災をもたらしてから、1年以上が経過しました。その間、各医療機関の先生方、職員の方々には、この厄介な感染症に対応しながら日々の日常診療に奮闘しておられることに、心から敬意と感謝を申し上げます。

今回、まだ収束の見えない状況下でこのウイルス感染症と継続的に闘っていくために、医療従事者同士の結束をより一層高めていただきたいとの思いをお伝えすると同時に、当院での新型コロナウイルス感染症に対する対応を掲載させていただこうと思います。

さて、本邦での最初の感染者の報告は、2020年1月16日、中国武漢への渡航歴のある神奈川県在住の中国籍の男性からでした。以降4月3日には国内感染者数が3,000人を超え、4月7日には政府より首都圏を中心に緊急事態宣言が発表されました。当院では、それに先立って2020年2月7日より、所轄保健所の要請もあり、救急外来の一角に、厳格なゾーニングとともに感染対策を施した「帰国者・接触者外来」の設置を開始しました。また、3月末より千葉県の医療調整本部より、感染者数の増大に伴い、コロナ感染者に対する病棟の設置を求められました。当初当院の病院機能(高度急性期医療+がん拠点病院)を鑑みて、また、病院の構造上のメリットでもあった各病棟からの手術室や集中治療室、検査室へのアクセスの良さがかえってコロナ感染には不利に働くのではないかと懸念から、一抹の不安もありましたが、医療機関としての地域社会への貢献を果たすべきであると判断し、4月10日に重症患者受け入れのための病床を、1病棟を転用して対応することにいたしました。職員からは当初、この感染症に対する知識も乏しく、心配の声も多くありましたが、受け入れ開始後には医療者として、また、病院としての社会的使命を全うすべく、全職員が一致団結して懸命に対応する様をつぶさに見ることとなり、病院長として、本当に頭が下がる思いで心より感謝したと同時に、この誇るべき職員を全力で守っていかうと改めて固く決意いたしました。連日夕方から夜間にかけて関係する職員50名以上とともに、感染対策本部会議としてWeb会議を開き、病院の方針や、感染対策に関する指示、感染防護器材のロジスティック関連、

入院患者の病態確認、コロナ感染症の新知見などに関して協議を行ってまいりました。5月下旬までには第一波が落ち着いてきたこともあり、感染対策に関しては一時一息つけるような状況がありました。ただ、病院経営に関しては、患者数の減少に伴う医療収入の歴史的減収が明らかとなり、病院長1年生の私としては、夜も眠れない日々が継続しておりました。そうこうしているうちに、7月に入って新宿歌舞伎町を中心とした若年者のクラスター発生が多数報道されるようになり、それに引き続いて千葉県でも患者数の増加が再度認められるようになってきました。8月中旬には第二波のピークがありましたが、その後も感染者数の明らかな減少が認められないまま、秋を迎えました。この時期には近隣の先生方の診療への一助となるべく、近隣住民へのご不安にお答えするべく、「発熱者外来」を開始し、また、「発熱相談センター」の設置も行い、対応をしてまいりました。

そして、本感染症の猛威を鮮明に思い知らされることになる、年末年始を迎えます。爆発的な感染拡大で、以前より手術予定の患者さんには患者さんのご家族、同居者を含めて入院前2週間の健康チェックをお願いしてまいりましたが、11月からは予定入院の患者さんには全員入院前にPCR検査の実施を開始し、さらに緊急入院の患者さんには、入院時の抗原検査(結果の判明が早く、緊急処置開始時間の短縮が可能)とともにPCR検査を施行することにいたしました(PCRの結果が判明するまでは、疑い症例として個室管理)。

また、新年に入ってから当院に通院中の患者さんの中にも「発熱者外来」にて陽性者が出始めたため、重症患者対応のみではなく、中等症以下の患者さんの治療も当院自身で行うことが必要と判断し、更に1病棟を転用して2021年1月18日より中等症患者さん用の病棟を開設いたしました。

そんな最中、1月23日の夕方、当院を数日前に退院した患者さんが発熱により「発熱者外来」を受診、検査の結果、新型コロナウイルス感染が確認されました。何時かこのような日が来るのではないかと“ロシアンルーレット”にさらされて続けていたような心境が、現実のものとなりました。早速入院していた当該病棟の全患者

さん、全職員にPCR検査を施行し、計4名の陽性が確認されました。また、同時期に入院し、既に退院していた患者さんの全てにご連絡し、検査を受けていただきました。その後は病院ホームページに報告させていただいた通り、最終的には患者さん25名職員3名の陽性が確認されました。発生は当該1病棟のみであり、他の病棟への伝播は無く、3月1日にはクラスターの終息を確認いたしました。また、昨年4月以来開設しているコロナ病棟では、現在まで院内感染の発生はありません。

新型コロナウイルス感染症の最も厄介な問題は、無症状保菌者や発症前の何ら自覚症状もない人が感染力を有すること、感染のごく初期には抗原検査でもPCR検査でも陰性反応であったにも拘らず数日後に発症しうること、一人の陽性者が数多くの人に感染伝播させる“スーパースプレッダー”が感染者の中に存在することです。どの患者さんが”スーパースプレッダー”であるのかは、事前に判別できません。このように、このウイルス感染症は感染防御の穴をより小さくしていく努力を継続して行っても、その穴をすり抜けてしまうことがあり100%侵入を防ぐことは困難なことなのです。院内感染を広げないためには、全職員の基本的な感染防御の徹底とともに、患者さんからのご協力（入院中、多床室では居室内でもマスク着用など）も必須となってきます。

その一方で、一条の希望の光も見えてまいりました。それはワクチン接種の始まりです。本邦で認可された新型コロナウイルスワクチンは現在までの報告では、海外で期待以上の有効性が確認されてきており、大変心強く感じます。当院でもこの接種事業にも積極的に貢献し、ワクチン接種に関する副反応（特にアナフィラキシー発症後の治療）には、全力で対応してまいります。

最後になりますが、これからも病院長として職員の安全、心身を含めた健康管理を注視・徹底しながら、あらゆる方策を用いて、この厄介な新型コロナウイルス感染症に対峙していく所存です。今後とも、皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

「医療者従事者同士、一致結束してコロナと闘ってまいります！」



日本医科大学千葉北総病院の理念

I 日本医科大学の教育理念と学是

教育理念：愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成

学 是：克己殉公

（私心を捨てて、医療と社会に貢献する）

II 病院の理念

患者さんの立場に立った、安全で良質な医療の実践と人間性豊かな良き医療人の育成

III 病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 患者さん中心の医療を実践します。
3. 患者さんの安全に最善の努力を払います。
4. 救急医療・高度先進医療を提供する指導的病院としての役割を担います。
5. 地域の保健・医療・福祉に貢献するため、基幹病院としての役割を担います。
6. 全ての人のために健康情報発信地を目指します。
7. 心ある優れた医療従事者を育成します。
8. 先進的な臨床医学研究を推進します。

患者さんの権利

1. 人間として尊厳のある安全で良質な医療を受けることができます。
2. ご自身の判断に必要な医学的説明を十分に受けることができます。
3. 医療の選択はご自身で決定することができます。
4. ご自身の診療に関わる情報を得ることができます。
5. 他の医療機関を受診することができます。（セカンドオピニオン）
6. 個人情報やプライバシーは厳守されます。
7. 児童（18歳未満の全てのもの）は、上記6項目に関し成人と同じ権利を有します。（こどもの権利憲章を参照）

患者さんの責務とお願い

1. ご自身の病状や既往症について、詳しく担当医師にお話ください。
2. 医師の説明が理解できない場合は、納得できるまでお聞きください。
3. 他の患者さんの迷惑にならないよう、院内のルールはお守りください。
4. 医療従事者と共同して診療に積極的に取り組んでください。
5. 当院は医療者育成の使命を担っている大学病院であることをご理解の上、診療の可否を決定してください。
6. 医療行為は本質的に不確実な部分があります。安全な医療のため最大限の努力を払っておりますが、患者さんの期待にそぐわぬ結果を生じる可能性があることをご理解ください。